

平成24年度（2012年度）

国際教育 地球市民を地域とともに育てよう Part 11 報告書



公益財団法人 滋賀県国際協会

は じ め に

今となっては薄れゆく記憶となりつつあるかもしれませんが、2012年度は国際的なニュースに溢れた年でした。

ロンドンオリンピックの開催や世紀の天体ショーと騒がれた金環日食には、世界中の人々が湧き上がりました。欧州の債務危機（ユーロ危機）や、チュニジア、エジプト、リビア、シリアなどに広まった中東の民主化運動では各国で次々に政変が起こり、アフリカのアルジェリアでは日本人エンジニアが尊い命を落とす事件が起きたことで、遠い北アフリカの地で活躍する日本人の存在が皮肉にもクローズアップされることとなりました。そして、第二次世界大戦後アメリカの統治下に置かれていた沖縄が、日本に復帰して40年目を迎えました。しかし、未だに基地問題やオスプレイ配備、米軍兵による事件など課題が山積み続けている現状は忘れられてはなりません。さらに、新しい北朝鮮最高指導者の就任やロシア大統領の再登板、アメリカ大統領の再選、中国共産党リーダーの交代など、各国のトップ人事に関わる大きな動きが次々と起こったというのは、珍しいのではないのでしょうか。

今は、こうした世界情勢の流れを注視しながら、領土問題やTPP交渉への参加、エネルギー源確保など、ますます日本の外交手腕が問われる大事な時期であると言えるでしょう。

このように目まぐるしく、また複雑に絡み合う世界情勢を見ていくと、国の内外を問わず、多様な人々が共に暮らし、共に問題解決のために協力する場面は増えていることは明らかです。その一方で、日本人同士であっても人間関係を良好に保つことが難しい今の時代。異なる文化背景や価値観を持つ人々を友人として、隣人として、あるいは仕事やプロジェクト運営の仲間としてよい関係をつくることは非常に難しいことかもしれません。そこで、今年度の国際教育ワークショップは、「人間関係トレーニング」をテーマに開催し、コミュニケーション力の向上を目指すこととしました。

同じ地球に暮らす人々が安心・安全に暮らしていける世界をともに作っていくために、個々人のコミュニケーション力が問われているといっても過言ではないかもしれません。まずは、身近な人たちの顔をみて、名前呼び合い、あいさつをすることからコミュニケーションを始めませんか。コミュニケーション能力が高い人たちが集まれば、きっと世界をより好ましい方向へ動かすことができると信じています。

平成25年（2013年）3月
公益財団法人滋賀県国際協会

地球市民を地域とともに育てようpart11

多文化共生文化を育む人間関係トレーニング ～「つながる」ための三つの力～

日時：2013年1月14日（月・祝） 9:45～16:45

会場：ピアザ淡海 参加者数：28名

主催：滋賀県国際協会 共催 JICA関西国際センター 協力：国際教育研究会 Glocal net Shiga

■概要

グローバル化するにつれて、国内外を問わず、多様な人々が共に暮らし、共に協力する場面は増えている。しかし、日本人同士であっても人間関係を良好に保つのは難しい今の時代。異なる文化背景を持つ人々を友だちとして、隣人として、あるいは仕事やプロジェクト運営の仲間として関係をつくることに悩みを抱えている人も少なくない。そこで今回、多様な人々と共生していく上で必要な意識、感覚、姿勢を育むための人間関係トレーニングを体験し、自らが実践者となることを目指す。



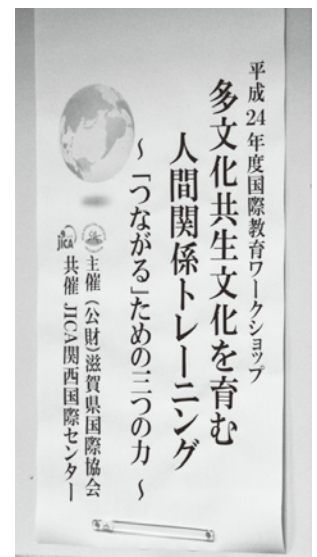
■講師の紹介



きむ か ゆ り
金 香百合さん

HEALホリスティック教育実践研究所所長

日本ホリスティック教育協会共同代表



<金 香百合さん●プロフィール>

社会と人間を総合的(ホリスティック)にみながら、幸せ・元気になる秘訣を日々追及している。関心は、社会人間学、ジェンダー、自尊感情、エンパワメント、DV、虐待、子どもの人権など。自宅で居場所「eトコ」を主宰し、ボランティアで週末里親をする。日本YWCA震災支援「こころのケア」も担当し奔走中!「金香百合のジェンダーワークショップ」(解放出版社)、「つながりのちから」「ピースフルな子どもたち」「ホリスティックに生きる」(せせらぎ出版)等の著者。

鳥取県人権文化センター客員研究員、大阪府人権教育推進懇話会委員、大阪府在日外国人問題有識者会議委員を務める。大阪で生まれて育った在日韓国朝鮮人三世。

1) 金先生 自己紹介にかえて

●私の仕事「支援におけるホリスティック・アプローチ(総合的取組み)」

いろんな学問を総合的に応用して考える。つまり、物事をバラバラに見るのではなく、その部分をつないで総合的に人間が社会で幸せに元気に生きていけるのか、ということを考え実践する仕事をしています。最近の学問の領域でいえば、社会人間学とか人間に対するホリスティック（全体的・総合的・包括的）なアプローチと呼ばれています。

今はそういうことを総合的にしていますが、私にとって大事な部分部分の一つひとつには、私自身のルーツである多文化共生がありました。そのことから経験してきたいじめや差別は、人権教育において非常に大事な要素でした。また女で生まれたことで、ジェンダーという問題も多文化を考える上でも人権を考える上でも抜き難い非常に重要な問題として生きてきました。



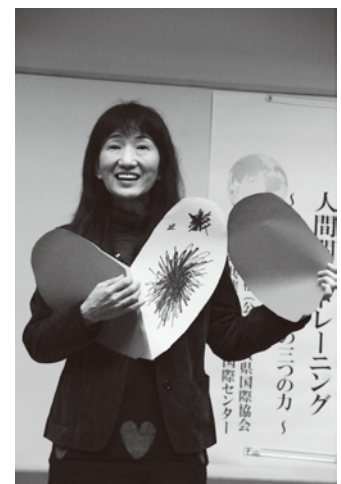
【支援におけるホリスティック・アプローチ●その1「東日本大震災後の被災地における心のケア」

この2年ぐらいで、特に力を入れてやっていることの一つに東日本大震災後の被災地における心のケアがあります。特に支援をしていらっしゃる方々が疲れ果てているので、支援者の支援に特化して福島県と宮城県に毎月行っています。阪神大震災の時の体験が根っこにあったからです。特に福島の問題は小さい子どもたちや、これから妊娠、出産する人など、被災する可能性の高い人たちにとっては「避難する」ということは重要なことなんです。この「移動する」ということは多文化の勉強をしている皆さんに重要なキーワードです。多文化というのは、国内の移動や地球上の移動を含めて、いろんな文化圏を移動するということです。今、全国各地に移動している福島のお母さんや子どもたちは異文化の中で、また受け入れる皆様も多文化共生のあり方を考えています。

私たちすべて人間は多文化であり、そのもっとも身近な例は、結婚生活であると言われています。布団の上げ下ろしから箸の上げ下げ、いつ食器を片付けるのか、うどんに何をかけるのか、全部多文化なわけです。つまり私とあなたの出会いは全部多文化なのです。

【支援におけるホリスティック・アプローチ●その2「引きこもりの若者支援」】

もう一つは、引きこもっている若者のことに関わっています。引きこもりの若者たちの文化も、また私の全然知らないものであったということです。今引きこもっているという若者たちは、約60～70万人いるという報告が出ています。また、それに近い状態の人たちが200万人を越えるというすごい数字も出ています。私が連日関わる引きこもりの若者は20歳代から40歳代を越えようとしている人たちですが、今政府の「引きこもりの若者支援」では年齢が39歳の枠があります。「40歳を越えているから、うちの息子はもうダメなんじゃないか」と言って心配して来られ



る親御さんがすごく多いです。皆さんの周りでも引きこもりというのは全然珍しくないから、恥ずべきことでもないと思ってしまうので、どんどん引きこもってしまいます。とにかく早期発見、早期手当です。

【支援におけるホリスティック・アプローチ●その3「社会的養護の子どもたち」】

それからもう一つ関わっていることに「社会的養護の子どもたち」があります。社会福祉の領域でここ10年、非常に重要なキーワードになっています。家で育つことが難しくなった状況の子どもたちが、施設等（0歳から2歳は乳児院、2歳から18歳までは児童養護施設、その後は自立支援ホーム等）で育ちます。諸外国では実の親が育てるのが難しいときには里親制度というのが主流ですが、日本は施設で子どもを育てることが主流になっています。その背景の一つに、里親のなり手が圧倒的に少ないということです。日本人は無理してでも海外に行って不妊治療をして、とにかく自分の血のつながった子どもを、という血にこだわる傾向が非常に強いです。日本社会では親のいない子ども達と血縁を越えた新しい家族を作っていくといった状況になっていないようです。現在、社会的養護が必要な子ども達が3万人から4万人と言われています。現実には、入れる施設がないから入れていない、データの中では出てこない暗数が非常に多いので、実際は5万人ぐらいになります。

今の日本では昔の「サザエさん」みたいな家族は滅多にありません。あれは一つの幻想と割り切った方がいいですね。でも日本人の幻想の中に、家族というものはサザエさん一家のように、おじいさん、おばあさん、子どもたち、孫たちがいて、みんな揃ってテーブルを囲みご飯を食べるという思い込みが強いです。現実には統計的にも一人世帯が一番多いという数字になってきています。その一人暮らしも高齢者が確実にどんどん増えていて、もう一方では一人暮らしの若者達が増えています。それは「経済的に安定していない」「仕事がない」、だから「結婚して子どもを産み育てていくことは出来ない」と結婚を考えないからです。また、この若者達が仕事を探して都会に出てしまうため、地方でも一人暮らし化ということが今日本の中に起こっています。

● 私の生い立ち

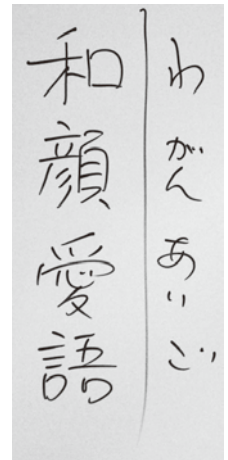
【家族というのは血のつながりではない】

プライベートでは、88歳になる母がいます。父は早くに亡くなりましたが、その母が12年ほど前に脳卒中で倒れて以来、半身麻痺の車いすの生活で認知症も進み、家族介護と看護に邁進してきました。うちの母は大正13年に済州島で生まれ、3歳のときに、「君が代丸」という連絡船に乗って大阪の港に着いたという記憶を今も持っています。3歳で日本に来ていますので母語は日本語です。小学校1年生のときに、韓国の済州島のおばあさんのところに行って1年間だけ学校に行きました。その1年の経験だけで、韓国語が話せます。その母の看護と、もう一つ週末里親をさせていただき、現在は2人の里子さんがいます。週末里親になろうと思った背景は、私は血縁が家族ではないと思っているからです。なぜそう思っているかというと、私の母の教えがあります。私の父は典型的な在日の済州島の男です。娘であり研究者である私の目から見た父は、結局朝鮮人にもなれず韓国人にもなれず、かといって日本人にもなれず、一番根本のところでは自分自身になれずに生きて死んだ人です。父は人生がうまくいかないときの男の典型で、ギャンブルと色恋に走りまわりました。母は自分が生んだ子ども5人と父の浮気相手の子どもを引き取り、6人の子どもを育てました。父は家を飛び出して

10年以上帰らず、母子家庭状態でした。母はそういうお父さんを愛し、最後まで尽くして生きました。そんな母のような生き方は出来ませんが、朝から晩まで一人で働いて、6人の子どものうち私を含め4人を大学へ行かせました。そういう母を見ていて思うのが、家族というのは血のつながりではなく一緒に暮らせば家族になれる。そういう考え方を母の生き方から学びました。

【人間はどうやったら幸せに生きられるか「和顔愛語」】

私の根本は、「人間はどうやったら幸せに生きられるか」ということです。「和顔愛語（わがんあいご）」という言葉があります。和やかな、平和な顔のこと。人間の生き方を説く仏教の言葉の一つで、生きているときには和やかな表情と愛と慈しみのある言葉で人と接して生きなさい、という教えです。人といるとき、生きていくとき、まず笑顔。日本のことわざにもありますね。「笑う門には福来る」。笑っているから福が寄り付いてくるんです。そういう心がけが大事なんです。こういう日本の文化をなぜ生活に活かさないのだろうか。だから私はこれを広めようと思っています。



2) 自己覚知と自己開示 ～ワークショップ『挨拶』～

● 挨拶Ⅰ「広く浅くから」

今日の大きなキーワードは、「伝わる」ということです。まず簡単につながってみましょう。隣や後ろや前の方に、にっこりと挨拶をする。「隣や後ろの人に挨拶してください」と言ったら、まず顔を見ることです。人間の目は一番大事なものを見るようになっているんです。だから、人の話を聞いているときに時計をチラチラ見ている人は、その時は時計が大事なんです。人間って分かりやすいんですね。

ちょっと笑顔で、よい声で、隣や後ろの人に、明るく。人間関係は「広く浅く」も、「狭く深い」のも大事なんです。この両方のバランスが必要なんです。挨拶は、まず初めは「広く浅く」からです。では隣近所の人たちに、にっこりと「おはようございます」と言ってみてください。

（あいさつの時間）

こうやって笑顔で始まったら、いい人が周りにいっぱいいるなあと安心するわけです。そこで知ってほしいことは、脳は最初という時間に非常に強い影響を受けるということです。これは日本のことわざで言えば、「はじめ良ければすべて良し」。もう一つ「終わり良ければすべて良し」。これはどちらも真実なんです。最初という時間に大きな影響を受ける。次、終わりという時間にも大きな影響を受ける。もちろんその間に影響を受けます。例えば良い人間関係を作ろうと思ったら、最初という時間を丁寧にする。これ皆さんが一番心がけることです。家族と住んでおられる方は、今朝、まず家族と「おはよう」と挨拶をして、家族の笑顔を見てきましたか。「今日はがんばって行ってくる」と言って出て来たなら、まず家族との関係の中で良い人間関係ですね。「朝からケンカしてきた」という人は、帰ったら最初に謝る。人間関係の極意は謝り上手になる、ということです。

● 挨拶Ⅱ－１「自己覚知 ～「自己紹介シート」の作成～」

今度は「広く浅く」をもうちょっと広げるために、簡単な名刺、自己紹介シートを作ります。自己紹介のシートは、人とつながるための素材作りです。「私とはこういう人間です」ということを書き出します。筆記用具が鉛筆でなくマジックなのは、学校ではないのでそれほどキチンと書かなくてもいいということです。絵でも描くようなつもりで、この範囲の中で自分のことを表してみてください。人に見せるので、人に言いたくないことは書かなくていいです。これは自分を知るという時間です。多文化理解は、自分を知り、そして人を知ることです。

（自己紹介シート作成）

【好きなもの、好きなコト、好きな時間】

◎好きなものがあるというのは生きるエネルギー源が１つや２つあるということ。好きなものがないときは、エネルギーのないとき。

◎好きなものの話は、人とのつながりを作るのが出来やすい。

◎人間は非常に辛い状況、非常に悲しい状況が長く続くと、かつて好きだったものでも「興味を持ってない」「何もいらない」「したいことはない」「食べたいものはない」「もう、どうでもいい」となってしまう。好きなものがどれを書こうか迷うほどある人は、今、そこそこ幸せで元気な状態である。

【関心のある人権問題など】

◎私たちは人と社会をつないで生き、多文化ということを勉強するときに、社会で起こっているいろんな問題に興味を持つ。

◎エネルギーが下がっているときには、何にも関心がない。最後に残るのは自分への関心。その自分への関心すらないという状況もある。

【今日の自分なりの目標】

◎ここに来た人は、ひとまずは自分で選んで来ている。何のために来ているのか。何をしたいと思って来ているのか。それを言葉で説明する。

◎すらすら書ける人は、自己覚知がある人ということ。自分の行動、思い、意識と言葉と表現が一致している。

● 挨拶Ⅱ－２「自己開示 ～自己紹介シートを持って挨拶～」

今から、自己紹介シートを持って３人の人と自己紹介をします。１番目の人と１分ずつ自己紹介をし、「ありがとう」と言って握手をして、次の人を見つけに行きます。そして次の人とも自己紹介を１分ずつ。まずは広く浅く。このときのもう一つのポイントは、立って動くことです。人に関わろう、つながろうと思う人は、座って待っているはいけません。これを、支援する人の専門の言葉で「アウトリーチ」と言います。つながりを大事にするときは、まず自分のペアを見つけないといけない。見つけたら、まだ見つけていない人はいないか、集団に対して気を使わないといけません。個人と集団の二つを配慮しなくてははいけません。



今の子どもたちはそれを出来ないと言っているけど、私たち大人が出来ていません。ですから、私たちは今、人に対して配慮できないエネルギーの低下があるということを知っておいてください。ペアの方が見つかったら、その人になっこととお顔を見て、「よろしく」と言いましょう。では1分ずつ自己紹介をします。「私から自己紹介をします」と言って、自己紹介シートを相手に見せながら、「こんな人間なんです」と話します。人間は言葉で聞く、耳で聞くだけよりも、見る方が理解しやすいんです。

(1人目自己紹介スタート)

今聞いていた方が「自己紹介ありがとうございます」と言って交代してください。「私も自己紹介をさせていただきます」と言って始めましょう。



(交代して1人目自己紹介スタート)

では、今聞かせてもらった方が、「ありがとうございます」と言いましょう。このあと「最後までよろしく」と握手して別れます。では、次の方を見つけに行きましょう。ペアが出来たらまずになっこと挨拶をしてください。「私から自己紹介します」で始めますが、いつも後から紹介する人は、ときどきバランスを変えて先に自己紹介してください。聞いていた方が「自己紹介ありがとうございました」と言ってください。次は「私も自己紹介させていただきます」で自己紹介をどうぞ。



(交代して2人目、3人目と交互に自己紹介)

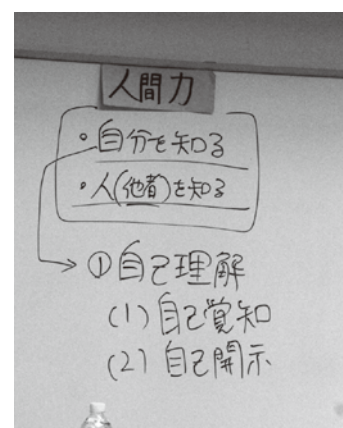
はい、ありがとうございます。では、今度はもう一度一番目に会った方を探して、「さきほどはどうもありがとう」と言って、さきほどのお礼をもう一度言います。

(1番目の人にお礼の挨拶、同様に2番目、3番目の人とも挨拶)

人といるとき顔を見て話すことができる、人の顔を見て素直に聞くことができる。これが対話力の基本です。

★「自己覚知」と「自己開示」

今日のテーマのつながるための3つの力「人間力、社会力、対話力」は、私たちを生きやすくしていくのに大事なものです。「人間力」の中で、まずしないといけないことは、「自分を知る」ということです。そして次に、人を知ることです。もう少し学問的な言葉を使うと、「他者を知る」。昔の戦国武将はこう言いました。「己を知り、敵を知らば百戦危うからず」相手をよく知ると、うまく生きやすくなるということです。このことにおいて多くの人がする失敗は、相手のことだけ知ろうとすることです。自分のことが分かっていないのに、人のことが分



けがありません。特に、ボランティア、教師、相談員という誰かをサポートする仕事の方は、ものすごく相手の事を理解して一番に考えます。まずは自分を知り、そして人を知ることです。

自己紹介シート作りは自己理解です。次が他者理解になります。自己理解の1つ目は「自己覚知」です。問いをもらって、自分を意識するということです。そして、この自己紹介シートを使って人に自分のことを話します。心を開いて自分のことを話すことを「自己開示」といいます。自分を知り、自分を語る。そして、他者はその人自身のことを語るのを受け止めて聴いていくという関係です。

● 挨拶Ⅲ「自己開示 ～輪になって全員で挨拶～」

ここに私を含めて29人います。にっこりと見渡してください。面白そうな人、楽しそうな人というのが伝わります。もしかしたら、知っている人がいるかもしれません。人間がいるところでは人間を見るようにすること。これはすごく大事です。今我々は人間がいるところでも携帯電話を見ている。ケータイでの架空のつながりにおぼれていくわけです。実際に人がいるときはケータイを置いて人を見ましょう。では軽く自己紹介をします。お名前と、いくつか質問をします。



〔1〕 まずは参加者全員に質問

質問) 何処から来たのか？

質問) 何をしている人か？

- ・参加者には先生が多いが、どんな先生（小学校、中学校など）？
- ・学生は？何を勉強しているのか？
- ・ボランティアで多文化といったことに関わっているという人？
- ・相談（地域在住の外国人の方や、学校、ソーシャルワーカーなど）に関わる仕事やボランティアをしている人？
- ・今一度も手を挙げなかった人は何をしている人？

〔2〕 ひとり一人が名前と好きなものを言う

（1人ずつ順に名前と好きなものを言って、一言自己紹介をする）

★カミングアウトは大切

カミングアウトには、自分のことを告白するという意味がありますが、さきほどの私のように、「私は在日韓国朝鮮人です」というふうに話すことはカミングアウトの一つです。人権教育の分野では、とりわけ重要なキーワードです。特に子どもたち、若者たちは自分の生い立ちをカミングアウトするというのは大切なことです。話してくださなければ分からなかったあの人と私の共通点、「山が好き、犬が好き」という同じ好きなものを持っている人たちがここにいるということが分かります。

● 挨拶Ⅳ「自己開示 ～4人1組になって挨拶～」

〔1〕 4人グループを作る

この人と話してみたいという人を見つけて、2人1組になります。自分と近いというのが一つの選び方、もう一つ、全然自分に近くないから話してみたいという選び方。これは異文化理解になります。

人を見つけるとき、すぐ手近なところで決めないようにしてください。手を挙げて10歩以上歩いてから決めます。

(ペア決め)

このお2人がもう2人組み、4人のグループを作ります。あまり知り合いでない方がいいです。

(4人グループ決め)

4人のグループ、うまく整いましたか。では、ペアの方が隣同士に座るように、4人で固まって座ってください。

(場所づくり)

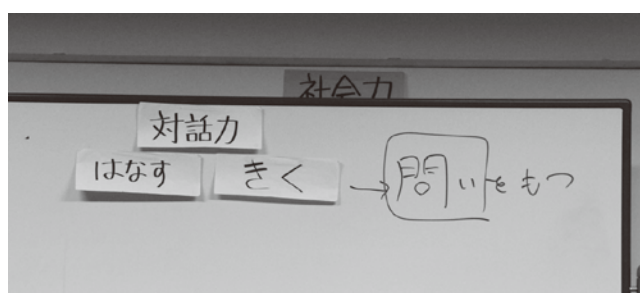


〔2〕4人で自己紹介

まずそのグループで自己紹介をします。今日のそのグループの中の1番の方は誕生日が1月に近い方。そのペアの方が2番、3番はその人のお向かいの方になります。1番の方から順番に1分ずつ、自己紹介シートを3人の方に見せながら、軽い自己紹介をします。まず人と話すときは、広く浅く情報を提供します。1番の方は「私から自己紹介いたします」と言って始め、1分たったら止めてください。あと3人の方は、一生懸命1番の方の顔を見て聴く。良い聴き手というのはすごく重要で、グループになっても集団になっても自分が一番のつもりで聴きます。

では、にこやかに聴きます。1番の方、どうぞ。

(1番の人の自己紹介)



ありがとうございます。聴き手3人はありがとうという代わりに拍手をしましょう。

(2番目、3番目、4番目と同じように自己紹介)

〔3〕開会の宣言

1番目の方が司会役で、まずしっかりと見回して、「私たちのグループは、〇〇さんと〇〇さんと〇〇さんと私、〇〇の4人ですね、よろしくお願いします」と開会を宣言をします。グループのつながりというのは、一人ひとりが「我々」という意識を持てはじめて「グループ」になります。今、子どもにクラスの子どもの名前を聞いたら、「いつも遊ぶ子の名前しか知らない」と言います。これは「クラス」というものが成り立っていないわけです。我々という意識がまず集団を育てていくベースです。つながりを作るときの第一歩は、



顔を見て名前を名乗り合って、名前を覚えること、そして名前呼び合うこと。これがつながりの一歩目です。刑務所では人間をあえて番号で呼びます。それは、人権を剥奪するのに最も効果的なやり方だからです。名前は生まれてから死ぬまで、死んだあともお墓にも刻まれて残るかもしれない大事なものです。だから名前で覚えて名前で呼ぶことが基本になります。

では、今4人というグループの中で「一人ひとりとても大事なメンバーですよ」ということを確認するために、1番の方はにっこりと「私たちのグループは」といって名前を呼びます。皆さんは自己紹介シートをさりげなく1番の方に見えるように並べてください。これが、他者の目から自分を見るという練習です。1番の人、どうぞ。

(1番の人による開会の宣言)

[4] 4人でおしゃべり

次は2番の方が司会になります。自己紹介で聞いたことから、お互いに質問し合います。さっき聞いたことで、興味を持ったことを質問し合う時間です。あくまでも受け身ではなく能動的に聴きます。相手が聴いて欲しいことを聴く。今聴かないといけないことを聴く。聴くという練習の中で非常に大事なものは、問いを持つということです。自分のために質問するのではなく、相手の成長のためのヒントになっているような質問をしてください。「離婚したの? いつしたの?」といった、ただ自分が聞きたい内容の質問は駄目です。相手とつながるために良い興味を持つ。お互いが本当に幸せになりたいために、問いをもつということです。

では、2番の方は顔を上げて「まずは私から」と口火を切りましょう。さっきの自己紹介をもとに、5分間のおしゃべりです。では、どうぞ。

(自己紹介をもとに、5分間おしゃべりする)

では2番の方、口火を切って始めてくださったので、今度は小さく締めくくっておきます。にこやかにみんなの顔を見て「みなさん、有意義なおしゃべりをありがとうございました。あとあとまでよろしく願います」と言ってください。

(2番の人の締めのあいさつ)

● 対話力 ～4人で対話する～

[1] 社会での一つのキーワードは「バラバラ」

このメンバーでおしゃべりをしていただくためのきっかけを提供したいと思います。それは、つながりに関係の深いことです。

今、私たちの社会での一つのキーワードは「バラバラ」です。いろいろつながっていると思っていたものが、実はバラバラだった。その典型的なものが家族、そして地域。職場も日本の経済が衰退していく中で、正職員が少なくなり、パートやアルバイトで入れ替わり、という状況がそれぞれの職場にも起こり、一人ひとりの体と心がバラバラになってきているのです。この「バラバラ」に対する言葉が、今日私が皆様に紹介



したい「ホリスティック」です。

ホリスティックとはギリシャ語で「全体的」とか「総合的」「包括的」と翻訳され、「部分部分をつないで総合的に見ていく」というものの考え方です。例えば、学校の成績だけで数学が良くできるから心配ない、という子どもの一面的な見方があります。ところがこの子どもは友達が一人もいない。空いている時間はいつでもゲームで遊んでいる。それは、その子の育ちのバランスが大きく崩れているということなんです。我々のものの見方がバラバラになっていると、その子の本質をみることができないのです。ホリスティックなものの見方の中で、とても大事にしていかなければいけないキーワードに、「つながり」「かかわり」「バランス」「関係性」「プロセス」「タイミング」といったキーワードがあります。どれもものすごく大事ですが、中でも「つながり」が重要なんです。

【ホリスティックなものの見方キーワード】

- ★ つながり……つながりがない（例）知識と行動、人と人、心とからだ
- ★ かかわり……かかわりがない（例）家族、職場、地域、
- ★ バランス……バランスがくずれる（例）仕事、早期教育、お金、健康
- ★ 関係性……相互作用の中でおこっていることに無自覚
- ★ プロセス……結果だけでなく、その過程も大切
- ★ タイミング……すべてに時がある

これからのお題は「バラバラ」ということについて、どう思いますか？ということ、ちょっとおしゃべりします。3番の方にはこやかに「みなさん、バラバラというキーワードを聞きました。それについておしゃべりしたいと思います。まずは私から」と一言話したり聞いたりしてみんなでしゃべってください。これが対話のバランスです。

（バラバラということについて、どう思いますか？ の対話）

では口火を切ってくださった3番目の人が皆さんをにっこり見回して、「みなさん、みんなバラバラでしたけど、バランスよくやっていきましょう」と締めくくってください。

（3番の人による締めくくり）

みんな、いろんな意味でバラバラなのです。自分はバラバラでない、完璧だと思っている人がいたら、その人が一番バラバラなんです。皆さんの今生きている現場から、この「バラバラ」という問題に気がついたことはとても素晴らしく良いことで、人間というものは、気づきが起これば変化が起こります。気づきがないときは、そのままどんどんバランスを崩していきます。

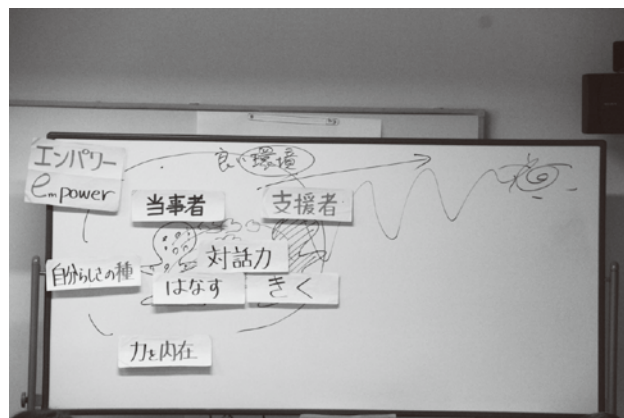
では4番の方は、午前中のこのグループの時間に感じたり発見したり、うれしくなったり、ショックだったり、こんなことを今受け止めています、ということ、少し言葉にして締めくくります。にっこりと皆さんの顔を見渡して、「私たちのグループは、〇〇さん、〇〇さん、〇〇さんと私、〇〇でした。午前中のグループの時間を通して、私はこんなことを感じたり発見したりしました」ということをお話しして、締めくくってください

（4番の人による、午前中のグループの締めくくり）

3) 対人援助者に必要な3つの力「人間力、社会力、対話力」

★人間はつながり、関わりの中で生きて、エンパワー発揮していく生き物

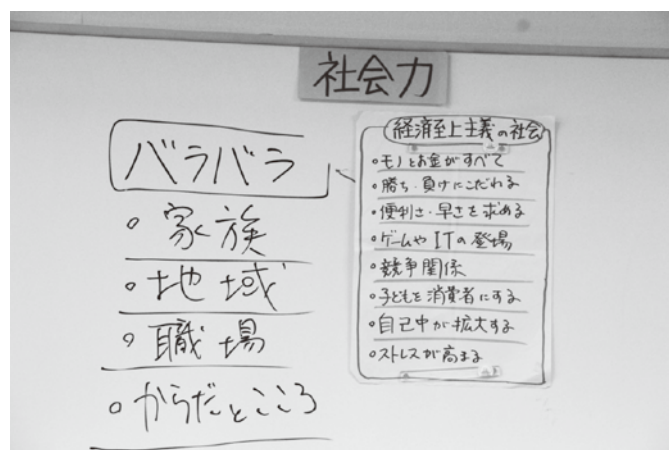
本日のテーマである“「つながる」ための三つの力”についてお話します。人間が好きで、人間がみんな幸せに生きてくれたらいいと考えています。人間は赤ちゃんから始まります。裸で小さく生まれた私たちは無知、無力に思えたかもしれませんが、あらゆる科学で研究して分かるのは、無知無力どころか、とんでもなく素晴らしい力を内在している存在だということです。私たち人間は60兆の細胞で出来上がっていて、その細胞は万能にいろいろ変化、成長しながら生きて行く、そういうもので出来ているのが私たち一人ひとりなんです。



この一人ひとは自分の人生を生きて行く主人公で当事者です。生まれたら最後は死ぬことでワンセットになっているのが人間なんです。生きるということは一日一日死に向かっているということです。いかに死ぬべきかというのは、やがて絶対その日が来るので、一日一日を大切に、自分らしく生きていこうということですが、人間は自分らしさの種を持って、力を内在している存在です。良い環境の中で生きている時には、この力がちゃんと芽生えて花が咲きます。これは元気に生きている状態のことで、近年「エンパワーしている」という英語で呼ぶことが多くなりました。エンパワーはパワーの前に“E”がつきます。英語の単語で、Eが一番前につく単語というのは、中から出てくるという意味を持つものが多く、エンパワーはパワーが中から出ているということです。人間がこうしたいきいきと発揮されている状態になるために必要なものが、「良い環境」というものだったんです。

美味しい空気を吸って、美味しい水を飲んで、ここからが既に良い環境です。そして、この良い環境要因において最も大きな影響を与えるものが人間です。人とつながっているという感覚、どんなに辛い時も苦しい時も、私のことを思ってくれる友達がいる、家族がいる、と思うことが、このエネルギーがどんなに低下するような辛い悲しいことから、人間を回復させるのです。もう一つ必要なのは、私を思ってくれる誰かがいる、私は一人ぼっちじゃない、という思いがあるから私たちは時間をかけて回復しながら生きていくのです。

そういう辛い経験を体験せずとも、もともと人間はつながり、関わりの中で生きて、エンパワー発揮していく生き物なのです。だから、本当に究極の孤独が長く続けば、自殺に至ってしまいます。ですから、人間は小さい時から人とつながれるようにしておかないといけません。人とつながるのはしんどいんです。邪魔臭いんです。この邪魔臭いことを毎日やりながら生きていることが必要なのです。今は核家族化で、やがてバラバラになっていきそうなこの時代の中で、家族も友達も大事していかないといけないわけです。こういう人との



つながり、関わりがあることによって、お互いがエンパワーしていくことが起こるわけです。

私たちは自分の人生を生きて行く当事者ですが、対人援助者、支援者になって周りのみんなを幸せに、元気にしていきたいファシリテーターになりたいという方には、3つの力が大事になってきます。一つが、人間力。人間力の中でまず知らないといけないのが自分のことで、自分を知り、人を知る。それから二つ目、社会のことを知る。社会に起こっている一つは、経済至上主義というものに我々は巻き込まれているということです。これはグローバル経済も含めてです。そして三つ目が人といたら顔を見て、話をし、聴くといった対話力なのです。

●「経済至上主義」について

〔1〕「経済至上主義」について4人でおしゃべり

（金先生の経済至上主義の話）

では今度は4番の方、にっこりと「午後もよろしくお願
いします」とまず言って、「経済至上主義の話を聞いて、
どうですか？」と5分ぐらいおしゃべりしましょう。

（経済至上主義について、おしゃべり）

4番の方は「たくさんしゃべってくださってありがとう」
と締めくくってください。

（4番の人の締めくくり）



★近江商人の「三方よし」理念

滋賀県は近江商人発祥の地です。近江商人の教えで一番有名な理念「三方よし」があります。近江商人というのは日本の経済人の土台であり、日本の経済はそこからスタートしています。それをもっとしっかりやっていたら、こんなにひどくはならなかったのではないかと考えている経済学者もいます。「三方よし」とはどういう意味でしょうか。グループのみんなで2分、知っているか聴き合ってみます。

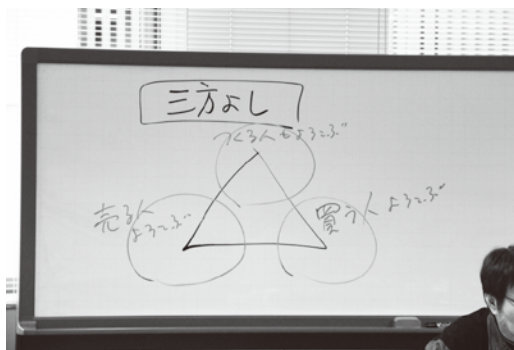
では3番の方、「三方よしって知っていますか」と始めてください。

（三方よしを知っているか聴き合う）

3番の方は「どうもありがとうございます」とお礼を言ってください。

（3番の人の締めくくり）

「売り手よし」は売ったら儲かるからよしです。「買い
手よし」はいいものをいい値段で買ったら買い手よしで
す。そして、「世間よし」。ここに日本人のホリスティッ
クな視点があります。目に見える関係者だけではなく、こ
こで売っている人、買っている人、この商売が世間全部を
よくしていくという発想なんです。世界がこの経済志向で
あれば、今のグローバル経済も違っているはずですよ。



〔2〕「経済至上主義」に振り回されていることについて4人でおしゃべり

また、日本人の文化の中では、「失敗は成功のもと」「七転び八起き」といったことわざ通りの育て方がありました。今は失敗させないで育ててきたことで、少しの失敗に持ちこたえられない弱い、もろい子どもが育ってきてしまいました。

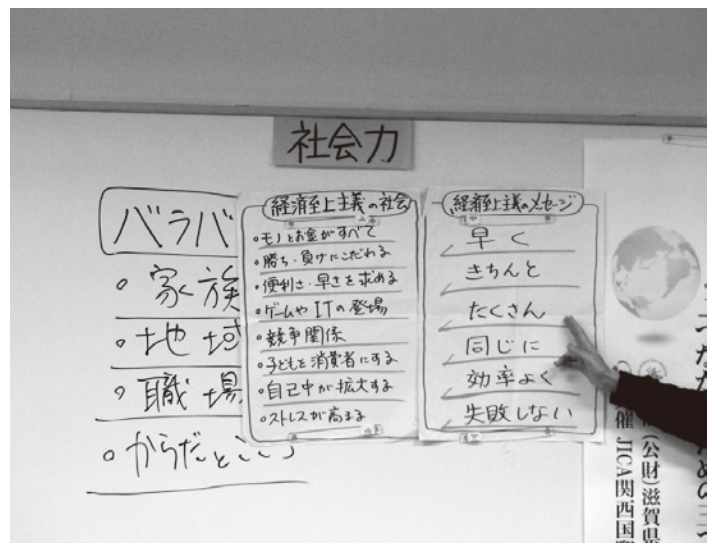
この経済至上主義というものは、大人も子どもも非人間的な状況にどんどんなっていく。その中で特に多文化ということでは、今日本中どここの町に行っても、大きな電気屋さんやコンビニエンスストアがあり、同じものを売っています。急激に町の個性がなくなり、どんどん我々の文化というものが破壊され、大事なものが失われているのです。

では、その経済至上主義のメッセージに、どれくらい振り回されているかということに気付いてみましょう。ポイントは「自分を知る」です。

では2番の方、「経済至上主義にどれくらい振り回されていますか」。「振り回されていない」と言う人がいたら、その人は大きくわけて一つは、うそつき。もう一つは、自覚が全然ない。今の時代をこれだけ生きてきているということは、大なり小なり経済至上主義に振り回されているんです。どの程度振り回されているかを、知っておくことが大事なのです。

では聴き合ってみましょう。

（経済至上主義にどれくらい振り回されているかについて聴き合う）



2番の方「経済至上主義に振り回われている私たちですね。でも、そのことをこうやって話せて良かったです」と締めくくってください。

（2番の人の締めくくり）

この経済至上主義のメッセージは、今や教育の現場であったり、病院、福祉施設、家庭の中にまで持ち込まれ、私たちは常にこれに追われているのです。お金は大事ですが、お金が全てではないというバランス感覚が絶妙なのが日本人でした。しかし現実には、何をするにもお金があれば出来るという状態が浸透しています。個性が排除され、お金が大事という経済至上主義の社会で、私たちは違いを受け入れられなくなってきました。みんな一緒の方が早くできる、という考え方です。そういう環境で育った子ども達はみんなと同じでないと排除が起こり、いじめが起こって蔓延していくという図式が出来上がってきたわけです。

●2人で「自尊感情」について聴き合う

ここ5年10年は地球が本当に持続可能でいけるかどうかの大変難しい時代です。これもキーワー

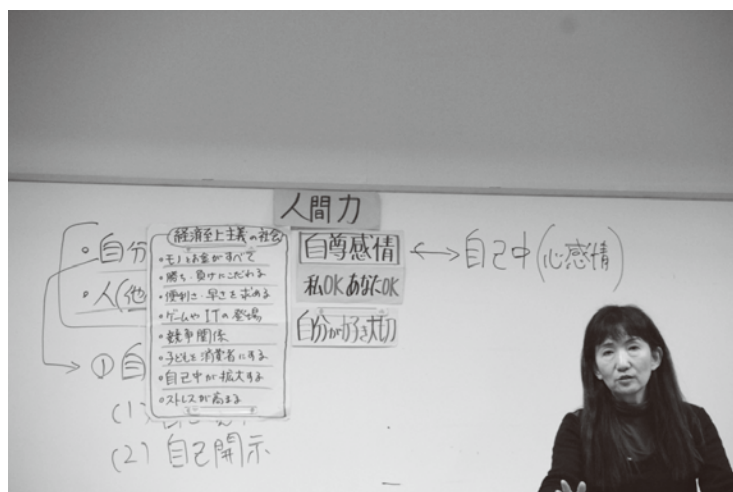
ドです。持続可能な社会というのは、自分だけトクして食いつぶして取るものだけ取って終わったらいいというのではなくて、まさに近江商人の「三方よし」で、売り手よし、買い手よし、世間もよしとなっていくような持続可能なあり方、経済も教育も社会もそれを目指すということが必要なわけです。そのために、まず重要なことは人間一人ひとりが変わっていくことです。この一人ひとりの人間を「自尊感情」という観点からお話しします。

(2人組に戻り移動)

★「自尊感情」について

私が人間力の中で最も重要なキーワードの一つだと思っているのが「自尊感情」です。自尊感情という言葉は、心理学の言葉ですが、人権教育や国際理解教育では自己肯定感情という言葉がよく使われます。自分を肯定できる感情。英語では「セルフ・エスティーム」と言います。

この自尊感情というのは、まず自分のことが好きと思える気持ち。次に人に対しても好きと思える気持ちです。自分のことが



好きだと思ったら、自尊感情が高いときで、嫌いだと思っているとしたら、自尊感情が低いときとなります。自尊感情には波があります。ここで重要なのは自尊感情と似て非なる「自己中」というものです。自己中心感情には「あなた」という感覚がありません。初めから終わりまで自分だけなんです。

今私が言っている自尊感情は、まさにホリスティックに人とのつながり、関わりを生きて来て、その中でまず自分を大事にできること。なぜかという、自分が人生の主人公で、変わる事のできない素晴らしい存在だからです。

※自尊感情が低い人の例・・・DVの夫、親の期待だけを背負わされて育っている子ども

[1] 自尊感情の特徴について2人で聴き合う

自尊感情の特徴を聞いてどう思いましたか？これを隣の方と1分ずつ話してみましょう。対話力を磨くためには話さないといけません。話せるかどうかは性格ではありません。習慣なんです。

(自尊感情の特徴を聞いてどう思ったかを二人で聴き合う。聴き役の方は「話してもらってありがとう」と言って交代する)

※聴かせてもらった話は、一旦胸に大事にしまうのが良い聴き手。次に話す時は本人の了解を取ってから話すことが基本。

[2] 体の栄養について2人で聴き合う

★体の栄養「ねる、たべる、うごく」

今の時代を生きていて、自分の周りに自尊感情が低くなっている人が一人もいないという環境はありません。今アンテナを広げて、自尊感情が低くなっている人を思い起こしながら、自分もその人も自尊感情をちょっと回復していくにはどうしたらいいかを考えます。

自尊感情はどうやったら高められるのかということですが、一つ目に体の栄養、二つ目に心の栄養

が必要です。体の栄養で重要度からいくと一番が「ねる」、二番が「たべる」、三番「うごく」です。

まずは「ねること」。夜に寝る、朝に起きる。これが脳にいい状態であり、健康のバロメーターです。夜寝ていないと、持続力、持久力、判断力、記憶力、自分の暴力性のコントロール、あらゆる力が低下していきます。



次に「食べるもの」。決して高いものではなく、自然の恵みのおいしいものです。人間の育ちの中には、「お腹がすいた」「食べている時が幸せ」という人は健康的な人です。

次に「動く」。動くというのは、日中天気の良いときは、外に出て動く。夜になったらおとなしく静かにすること。これが「動く」ということです。もう一つ、気持ちを出すということがあります。

体の栄養、最近どうですか？ 自分はぼろぼろだと気付いたら、それだけで今日来た甲斐がありますよ。聴き合ってみましょう。

(「最近、体の栄養はいかがですか」と互いに聴き合う)

では、聴き役のみなさんは「話してもらってありがとう。今はそうなんですね」と言ってください。この「今はそうなんですね」というのはすごく深い意味があります。人間は、変わっていきます。でも「今はそうなんですね」と温かく応答します。

(応答し聴き役を交代)

食べることも、日本が豊かになったからちゃんと食べていると思ったら大間違いでした。経済至上主義は、進行していくとどんどん格差が広がります。勝ち組1%、負け組99%にしていくこの構造の中で、日本の子どもの7人に1人はすでに生活保護水準以下の貧困ラインで生活しているということが統計で出ています。子どもたちに三食食べているものを絵に描いてもらおうと、朝、水とパン、昼、水とパン、夜、水とお菓子といった絵が描かれます。一方、裕福そうな家庭でも、食文化が非常にやせ細っています。お父さんもお母さんも忙しいため、百貨店のお弁当で済ましてしまう。栄養の研究で非常に興味深いのは、どんなごちそうを食べていても、一人で寂しく食べているときは、栄養の摂取度が低くなるんです。

そして、動くということでは、子どもたちは動かなくなってしまった。子どもは外で遊ぶことによって筋力をつけ骨量を増やしています。それを全然しないでずっとゲームをしている、学校へも塾へも車で送り迎えしてもらっている、そんな生活をしていたら、体がぼろぼろになっていきます。歩くことは、脚力と、筋力と持久力、我慢強さが鍛えられます。歩かないからチキンラーメンの3分も待てない人間になるのです。今は大人も子ども



も体の栄養がまずぼろぼろになってきたのです。

私は体の栄養を、昔はものすごく軽く見ていました。日本は豊かになったから、体の栄養のことはみんな出来ている、と考えていたんです。これは大きな間違いでした。実は日本中、昼夜逆転で夜に眠れていない大人、子どもがどっと増えていた。それは家庭が複雑に崩壊して行く中で、家の中で父親がDVしている、兄が家庭内暴力している、だから夜に安心して眠れていないという子どもたちがたくさんいたのです。家の中が安心、安全ではないから夜遅くまで営業しているコンビニエンスストアやファーストフードに徘徊し、日中は疲れ果てて寝てしまうという昼夜逆転がよく起こっていました。

〔3〕心の栄養は足りているか2人で聴き合う

★心の栄養について

心の栄養というのは、人とのつながり、関わりの中で、まず自分に安心で安全な居場所がある。「家に帰りたい」という言葉を持つ人は、幸せな人です。そして自分のことを心配してくれる、気にかけてくれる、関心を持ってくれる人がある。温かく大切に振る舞ってくれる人がある。つらいとき、悲しい時には話を聞いてくれる人がある。説教しないで聞いてくれる人がある。生きている、すごいねと褒めてくれる人がある、認めてくれる人がある。信じてくれる人がある。そして、ありがとう、今日あなたが来てくれてうれしい、と言ってくれる人がある。それから、私たちにはだれでも欠点や失敗があります。それを全部含めて、あるがまま丸ごとのオッケーしてくれる人がある。そして、「笑顔」です。脳は、笑顔を見ているとき非常に活性化するということが分かりました。逆に言うと、しんどそうな顔、辛そうな顔、怒った顔、こんな顔ばかり見ていると、脳が非常に萎縮してくるんです。子ども時代は余計にそうなります。だから出来るだけ笑顔を見せ合うというのはいいことなのです。こうしたもの全てがあって、ようやく生きている甲斐があるのです。



ではお互いに聴いてみましょう。心の栄養は最近、足りていますか？

（「最近心の栄養はどうですか。欲しいものはありますか？」について聴き合う）

聴き役のみなさんは「話してもらってありがとう」と、プラスして「あげられるものならあげたいです」と言ってください。なぜこんなことを言うかということ、みなさん、聴き上手が深まっているんです。そうすると、聴く前に、「この人は栄養足りているかなあ、足りていてほしいなあ」そう思いながら聴いているわけです。「今足りていない」と言われたら、「私に話してくれてありがとう、私も出来るものだったらあげたいわ」ということをちゃんと言葉にしてお伝えする。これが愛のある聴き方です。

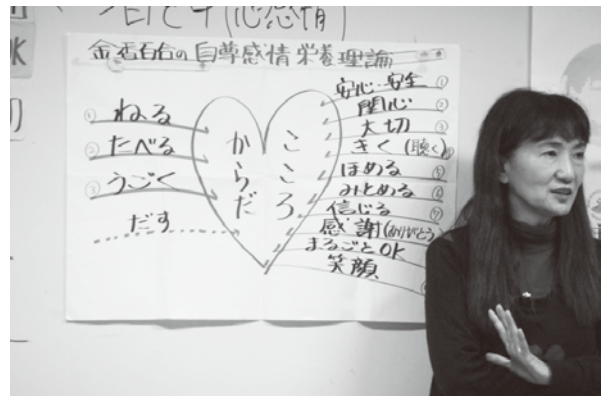
（聴かせてもらってありがとう、あげられるものならあげたいです）



「あげられるものならあげたいです」と言われたら、今皆さんはわりと元氣だから、素直に「ありがとう」と言えるのです。ところがエネルギーが低下しているときは、「いえいえ」と貰うことが下手で、それが習慣になってしまうのです。だから、習慣を変えていくのです。くれる人からは貰う。くれない人を追いかけない。多くの人は、くれない人を追いかけるんです。例えば子どもたちは、くれない親を追いかけます。中学、高校生ぐらいの講演会では、「体の栄養と心の栄養をくれる親ではないと思ったら、今までよく生きてこられた。これから先、親に求めることはやめよう。くれない親は意識の外にはずす。親を断ち切れ」とまで言うんです。「親は、選んで生まれてきたわけじゃない。でもこれからは友達を作っていく、仲間を作っていく、素晴らしい恋人に出会う、家族を作っていく、それは全部自分が選んでいくことだ。これから作っていく人間関係の中で、心の栄養をあげたりもらったりしながら、笑い合って幸せに生きて行く、そういうことをあなたたちはするんですよ、出来るんですよ」そんな話をするんです。子どもは親が大事なんです。だからこそ、一旦は断ち切る。そうすれば、作り直せます。親離れ、子離れしていくときに、それをしていけるように、伝えてあげることが大事です。

（「まわりで、体の栄養や心の栄養が不足している人はいますか」と聴き合う）

（大事なことを話してくれてありがとう、優しいですね）



★「喪失体験」について

当事者

良い環境

古墳

喪失体験

- ①大切な人・ペット
- ②慣れた環境
- ③仕事・勉強・趣味
- ④健康(心身)
- ⑤自信
- ⑥自己イメージ・他

言われることで、親を失うという経験。いじめによって誰も信じられなくなり友達を失う。国を越境して遠くに行く人たちにとっては、家族や友達とは簡単には会えないし、ましてや一緒にご飯を食べることは出来ません。慣れ親しんだ環境を失い、日本に来たときに仕事も失う。母国では仕事もできたのに、外国人だからということで、なかなか就職ができない。どんどん自信を失っていきます。

それから、健康を失う。眠れなくなる。いろんなことが病気でうまくいかなくなっていくときの喪失感は非常に大きいです。また、当たり前に行っていく自信を失う。自分は普通じゃないんだ、みんなとは違って劣っているんだといった考え方に縛られていくと、自己イメージが崩れていく。自尊感情がどんどん下がっていくのです。眠れなくなる。食べられなくなる。反対に食べ過ぎたり、寝てばかりになることもあります。それから、動けなくなる。一方で、止まらなくなる。多動という傾向です。過労死寸前の人は、スケジュール帳がびっしりでないと気がすまない状態になっていきます。朝も、昼も、晩も止まれなくなる。崩れて行く時というのはこんな状態です。

皆さんが今、栄養不足かなと心配した人の中に、最近こんなことが続いていたのではないかなあということを、思い起こしてみてください。外側だけ見えるのではない、その背景にいろんなものを見失っていることがあります。

今の話を聞いてどう思う、を2分だけお互いに話し合しましょう。

(今の喪失体験の話聴いて、どう思いますか)

自ら望んでいく人は、喪失にはなりません。例えば、「家族に応援してもらって私は日本を離れます」という場合は喪失ではありません。新たに創り出していく方です。しかし、子どもたちは親の経済的事情、家庭の事情などで親の環境が変わっていく、それに合わせて自分はいかにいかないといけないという状況があるわけです。

【5】多文化の子どもたちを取り囲む状況について2人で聞き合う

★「アイデンティティ・クライシス（自我形成の危機）」について

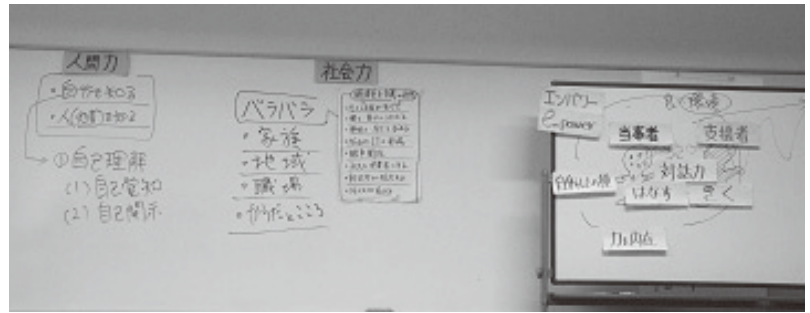
最後に多文化の子どもたちを取り囲む状況のことも知っておいてください。この子どもの問題が大人の問題となってくるのです。子どもを取り囲む「言葉の壁、心の壁、制度の壁」といった3つの壁があります。一口に多文化の子どもといっても、何歳で日本に来たのか、日本で生まれたのか、育ったのかによって多様です。その多様さの中でもこの3つの壁が見えない壁としてあることを踏まえてください。

現在の社会状況の中で、日本の子どもはすでに厳しい競争といじめの中にあります。だから、異質なものを受け付ける余裕がない。自尊感情が低くて、異質な者を攻撃する対象にしてしまうのが、日本の子どもたちの集団に起こっているのです。

また、学校や地域に根強い差別や偏見があり、当事者が辛い体験をすることがまだまだあるということ。こんな社会状況があります。

一方、多文化の子どもの家庭の状況は、保護者が仕事を喪失し、自信を喪失する中で、自信を持って家庭を作っていくことが起こります。そのときに自文化の否定が子どもや親の間に起こるのです。それはカミングアウトどころか、そういうルーツは出来るだけ黙っておくという状況になります。保護者が子どもの多様なケアにまでエネルギーが回らない。また、家族の中で共通言語を失うということが起こっています。だから子どもたちには、日本語を覚えること以上に、母国語を覚えること、「母国保持」が大事であり、自分の文化に誇りとルーツをちゃんと感じていくことが必要なのです。

子どもは保護者の価値観と日本社会の価値観の中で、非常に揺れ動くわけです。これは子どもの発達段階や諸条件で違います。兄弟がいたら助け合いもできますが、一人だったら、自分の苦しさ、しんどさを話せる相手もなかなか少ない。思春期である中学、高校生はアイデンティティの葛藤があります。「自分とは何者か、日本人なのか、中国人なのか、地球人なのか、何なのか」。しかも、日本の子どもたちの思春期の問題状況の中に、いきなり放り込まれますから、なかなか難しいです。いきなり10歳代半ばで来日する子どもは、学業と進路設計、将来設計との選択に迫られます。でも親も自分もそういう情報が十分にあるわけではないため、どんなふうに生きていけばいいかわかりません。また、子どもたちは10歳代でも、アルバイトなどで家庭を支える一家の柱を担っていることがたくさんあります。



アイデンティティ・クライシス（自我形成の危機）。日本人でもなく、〇〇人でもなく、自分は何者かという、喪失体験の中にいるということがあるのです。

では、想像力を駆使しながら、今のこの話を聞いて、どう思いますか？ 交代で話してみましょう。

（今のこの話を聞いて、どうですか？）

★公平で平等な興味や関心を持って、新しい時代の社会を皆さんと一緒につくっていきたい。

私が5歳のときに「あんた朝鮮人や」ではなく、「あんたフランス人や」と言われていたら、多分、私はそんなに落ち込まなかったかもしれない。わずか5歳で世の中のことが分かっているわけでもないのに、その背景にあるのは何なのか。文化も、経済至上主義の中で格付けされているということです。語学学習者の人口を見ればすぐ分かります。ヨーロッパに力があつたときには、ヨーロッパの言語を習う人が一番多かった。アメリカが経済の中心になっていったから、英語を学ぶ人がすごく多くなった。でも今は中国語を勉強しているわけです。実は、経済至上主義では文化を見えないところでランク付けしているのです。でも、ここに集まるみんなはそんなランク付けはいりません。どの文化も素晴らしく、出会ったところで教え合い、学び合う。そういう自尊感情を高く、いろんなものに対して公平で平等な興味や関心を持って、新しい時代の社会を皆さんと一緒につくっていきたいというのが、私の心からの願いです。

多文化共生文化を育む人間関係トレーニング、「つながる」ための三つの力。まずは人間力、この社会をきちんと読み解いていく社会力、それから、その人間力や社会力をつないでいく対話力があって、私たちがいます。今日ここには多様な方々が仕事をしに、勉強をしに来てくださっています。その中で、国を越えた違いに出会う豊かさをいっぱい持っているということ。また、滋賀県はもともと国内的にも、ものと人が行き交う出会いの場、日本の文化の要です。そういう自分が今出会っている文化に興味、関心を持って関わっていく、そんな21世紀にしていきたいと思います。

今日は長い時間、本当にありがとうございました。まず隣の人と前後の人に、「ありがとう」と言っておきましょう。

（ありがとうの挨拶）

今日は自分を褒めて、人を褒めて終わりたいと思います。ありがとうございました。

2012年度「国際教育教材体験フェア in 滋賀 Part 3」

日時：2012年5月26日(土) 13:00～16:45

会場：ピアザ淡海 参加者数：43名

主催：滋賀県国際協会 共催：JICA関西国際センター、国際教育研究会 Glocal net Shiga

第1分科会：「平和ってなんだろう？これって平和？」

■講師：大槻一彦さん（国際教育研究会 Glocal net Shiga） ■参加者：24名

1) 自己紹介+ワーク内容紹介（5分）

2) アイスブレイキング（10分）

ラインナップクイズ：「世界の平和度」「日本の平和度」に対して自分で点数付け（100点満点）を行い、コミュニケーションを図りつつ、列を形成し6グループに分かれる。

3) ワークショップ（30分）

- ・PPTの写真をみて「平和とを感じるか否か」を各自で点数（0から5点）をつけ、意見交換する。
- ・各グループ発表（1番高い点数・1番低い点数・点数付けが難しい写真順について）



【意見】

グループ①：難しい→死刑の写真

（理由：死刑は平和でないから生じる。人が人を裁く事が平和なのか。）

グループ②：難しい→油まみれになった鳥が死んだ写真

（理由：人にとって受け取り方が違う。死刑よりも難しい。意見：写真に写る人が幸せそうかそうでないかで判断。災害や政治は不可抗力なので、一概には平和ではないといえない。）

グループ③：低い→飢餓状態の子どもの写真 高い→戦隊モノの写真

難しい→死刑の写真・地雷の写真

グループ④：難しい→戦隊モノの写真

（理由：戦うことで解決するということを子ども時代に学ぶことは平和ではない。）

グループ⑤：低い→地雷の写真

（理由：人の命を奪うものは0点。戦争に関わるもの。）

高い→戦隊モノ

グループ⑥：難しい→軍事パレードなどは特に低い点数である必要はない。

4) グループディスカッション (20分)

- ・色・匂い・音・感触・味など五感で平和を理解することが大切
- ・平和ってどんな感じが皆で共有する（「ポーポキ・友情って。なに色？」：著ロニー・アレキサンダー）。

5) お絵かきワークショップ (20分)

- ・各自の平和のイメージを生かしながら1枚の「平和の町」の絵をグループで仕上げる。
- ・グループ毎に作品を鑑賞する。



【意見】

- ①細かく描くグループと抽象的に描くグループがあり、平和に対する表現の違いが顕著（人を描くグループ・色だけで表現するグループなど）。
- ②白紙のグループもあった（絵によって決め付けてしまう恐れがあるので）。
- ③幸せと感じる気持ちの違い（個人の平和へのイメージの相違）がある。

6) 全体のまとめ

- ・一人30秒で今日ワークショップのまとめを共有する。

【参加者からの意見】

- ① 平和の定義が分からなくなったけど、共有することで心地よかった。
- ② グループワークではなく、個人のワークの方がよいのでは（今回は共同するという作業が平和を理解することにつながると講師が考えグループワークを採用した。）
- ③ ワークショップの内容や狙いがぼやけていて分かりづらい。実際、現実には生じている事例を取り上げる方が理解が深まるのでは。
- ④ イメージだけではわかりづらい。
- ⑤ 対象年齢によって手法を変え、大学生や高校生対象では最終的に平和の定義づけするワークもありうる。
- ⑥ 日々の平和の大切さや感じることの大切さを感じた。
- ⑦ 平和な国と紛争の国との比較をして、その違いを考える。
- ⑧ 紛争地域では時として紛争ボケ（紛争が日常化恒常化し）、環境に慣れてしまっていて土地の住民は特別な事態だと思わないこともある。

分科会2

「2011 JICA教師海外研修実践授業報告～世界とつながるわたし～」

■講師：角江美智子さん（近江八幡市立岡山小学校） ■参加者：18名

1) 教師海外研修の概要説明・講師紹介（10分）

JICA関西国際協力推進員 - 奈良担当 吐山さん

PPT(パワーポイント)による事業概要の説明と2011年のタンザニア研修の写真を交えての研修の様子を報告

2) 角江先生自己紹介（5分）

<自己紹介>

- ・平成23年度教師海外研修タンザニアコースに参加。昨年1年生、今年2年生の担任。
- ・研修に参加しようと思った理由：途上国を見てみたい、「大事なこと」って何だろう？と思い、アフリカに行きたかった。

3) アイスブレイク「タンザニアの言葉で友だちになろう」（5分）

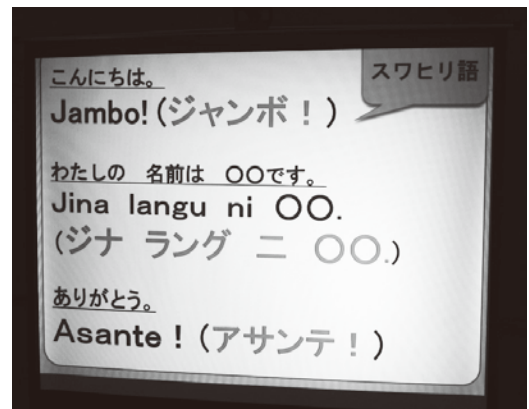
こんにちは：Jambo(ジャンボ)

わたしの名前は〇〇です：

Jina langu ni〇〇 (ジナ ラング ニ 〇〇)

ありがとう：Asante(アサンテ)

上記言葉をPPT(パワーポイント)に映し、各自のタンザニア名の名刺を持ち、数人と挨拶を交わしながら名刺交換。



4) 実践ワーク①「フォトランゲージ」（15分）

「タンザニアの小学校におじゃまします！」

小学校の写真を見て意見を出す

- ・制服がない
- ・掲示物がない
- ・電気がない
- ・髪が短い
- ・3人で1つの椅子に座っている



1年生の授業実践

① 椅子を児童の数より1つ少なくなるように撤去する ↓ 2 脚の椅子を3人で分ける “椅子がない！” 児童の発した言葉： 「いっしょにすわろ！」 「ありがとう！！」 こんな座り方なのに集中	②教科書を1グループに1人だけ配布 ↓ 皆で見る “教科書がない！” 「教科書に載っているスワヒリ語の123を覚えましょう。覚えられない人はおのこりです！」 ※教科書がないと123をスワヒリ語でどう言うのか分かりません。 「いっしょに見よ～」 「見せたげる」 「助かった！」 〇〇はないけど、〇〇はある・・・？ 〇〇がないから、〇〇がある・・・？
--	--

<子どもたちの感想より>

- ・椅子がなくてどうしようと思ったけど、“一緒にすわろっ！” って言ってもらってうれしかった

<感じとってほしいこと>

- ・物事はいろいろなとらえ方ができること
- ・世界にはいろいろな「あたりまえ」があること
- ・違う国や文化を知るのはおもしろいこと

5) 実践授業の流れを紹介 (3分)

6年生の授業実践 対象：72名 総合的な学習の時間を5時間使用

1時間目：カンガ/カンガに書かれた言葉の紹介

角江先生の好きな言葉『かがみ込む場所こそ立ち上がる場所』

2時間目：「学校紹介」 実践ワーク①

3時間目：「タンザニアの子どもたちと日本の私たち」実践ワーク②

4時間目：「オマリさんに会おう」（滋賀に住む、タンザニア出身の方との交流）

5時間目：「世界とつながる私たち」実践ワーク③

この授業での生徒Aさんの変化を紹介：

「タンザニアの子どもたちを少し見下していた」から「どっちが上とかではないと思えるようになっていった」

6) 実践ワーク② (17分)

「タンザニアの子どもたちと日本の私たち」

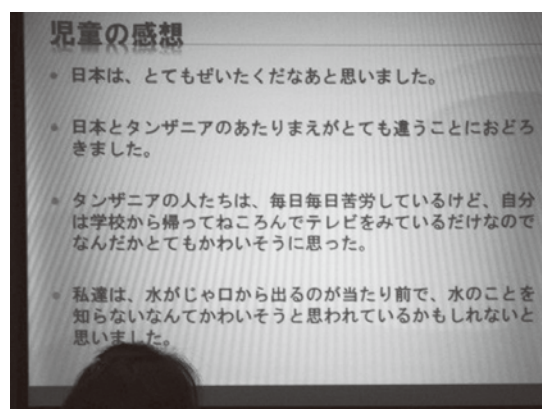
- ・ワークシート “タンザニアの子と水、わたしたちと水”

水くみに行く＝かわいそう

水道から出る＝しあわせ

↓

ほんとうに??



7) 参加者とブラッシュアップ (10分)

＜参加者からの意見＞

- ・人と交流できたのが良かった。
- ・1枚の写真から自分の持つ“ものさし”と違う目線で考えることが出来た。
- ・日本の自分の足元と「見比べながら」というのが良かった。
- ・写真が全てカメラ目線なので、どうしても楽しそうに見えてしまい、労働の実態が見えにくい。
- ・20リットルのバケツを実際に持って数百メートルを歩かせてみる等の実際の大変さを体験させることも大事では？

角江先生のまとめ

- 分からないから分かってもらう、関心を持つことが大切だと思った。
- 結局どうなの???と悩むことが、もう少し知ろうにつながり、深まっていくと思った。

8) 実践ワーク③ (10分) ※このワークは実施せず、紹介のみ

「世界とつながる私たち」

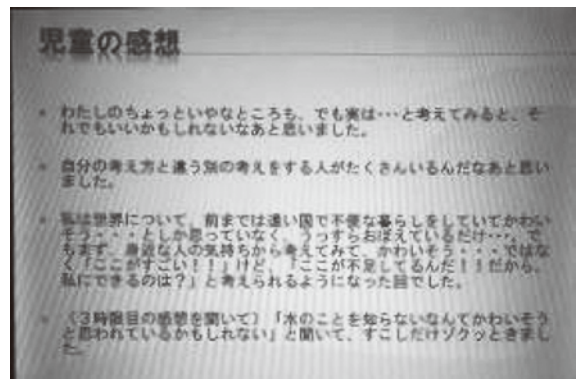
- ・自分の「ちょっといやなところ」について考える。
- ・同じことでも人によって意見が違うことを感じる。

わたしのちょっといやなところ

→でも、実は…

例) はっきり意見が言えない

→相手のことをよく考えて、優しい



角江先生が、国際教育・開発教育…今思うこと

小学生にとっては、目の前のこと(家族・友だち・勉強…)に一生懸命取り組むことが大事。でも、外国のことを知ること、世界の問題を考えることは、身近な問題を考えることは、身近な問題を考えるヒントやきっかけにきっとなると思います。

9) 質疑応答・意見(5分)

- ・研修に参加してみて今思うことは？
かわいそうな人々を間近に見たいと思っていたけれど、先進国やから「～してあげる」というのは違うと感じた。日本よりスゴイところもたくさんある。
- ・授業の組立は？
人権教育の観点からそこに近づけて組立てた。
小学校でアフリカについて学ぶことはないので貴重だと思った。

10) まとめ (10分)

教師海外研修2011年度報告書配布：JICA吐山さんより補足説明

第3分科会

非識字体験ゲーム「ここは、何色？」

■講師：永井しのぶさん・大槻 一彦さん（国際教育研究会 Glocal net Shiga）

■参加者：18名

- 1) 自己紹介（5分）
- 2) アイスブレイキング（10分）
 - ① 参加者1人1人にカード（1言語のあいさつ）を配布し、同じ言語のカードを持った参加者と2人1組になる。
 - ② 2人で一緒にカードに書いてある「あいさつ」を読み、何語が当てる。
（6言語：日本語、タガログ語、アラビア語、タイ語、ポルトガル語、中国語）

【意見（発見）】

- ・あいさつは多言語で書かれているため、カタカナのふりがながなければ読めない。
- ・ある言語は、2つのあいさつのやり方があった（男性と女性によって違う）。

- 3) 「ここは、何色？」ワークショップ（45分）

- ① ゲームのルールを書いた用紙が配布され、2人でルールを理解するよう指示。
しかし、ルールは、日本語で書かれていない！

【意見（発見）】

- ・漢字（中国語）やアルファベット標記の言語は、何かが書いてあるか少しだけ想像できる単語もあるが、タイ語は全くわからない。
- ② 部屋の中に隠された言語ポスター（10種類の色の名前が12言語で書かれている）を探し、連動する2つのワークシートの答えを2人で協力し、導き出す（ワークシート2枚の内の1枚は、100マスシート、問題を解いていくと、図柄が浮かび上がってくる）。
- ③ 完成した図柄を紹介する。

【意見（発見）】

- ・フランス語と英語で似たような単語があり、惑わされた。
 - ・タイ語とヒンズー語は、難しそうだが、実際に真似て書いてみると楽しいし、何度も書いていると、覚えることができる。
 - ・世界の文字の種類は一体いくつあるのか、興味が湧いてきた。
 - ・ぬり絵に夢中になりすぎる子どもたちもいるので、（ワークショップを行う）対象学年は高くなるのではないかな。
- ④ 文字が読めない人はどんな人たちなのか、という講師の質問に対して、以下のような回答があった。

【意見（発見）】

- ・学校に行っていない人
- ・旅行者
- ・視力がない人
- ・言葉ができなくても、表情やジェスチャーで伝わることもあるのではないかな



4) ネパールにおける文字が読めない人、特に学校へ行けない子供たちの状況について

(25分、大槻さんのお話)

① 世界における文字が読めない子どもたち（人たち）について

- ・ 学校に行くことができない子どもたちは、2009年1億3000万人から2012年6000万人と減少している（国連ミレニアム開発目標（MDGs）の成果か？）。
- ・ 文字が読めない3分の2以上が女性であり、その背景には「ジェンダー問題」が存在する。

② ネパールで識字普及活動をする元青年海外協力隊員が撮った写真の紹介

- ・ 写真① 文字のみの看板
- ・ 写真② 女の子が描かれている看板
(①②共に女の子も学校へ行こう！というメッセージ)
- ・ 写真③ 文字のみの看板
(「借金があるからといって、女の子を学校へ行かせないのは良くない」というメッセージ)
- ・ 写真④ 大人の識字教室の様子（1か月2万円で開くことができるそう）



③ 文字が読めない人が多いと、社会にどんな影響がでるのか、という講師の質問に対して、以下のような意見が出た。

【意見（発見）】

- ・ 投票ができない（ネパールでは、各政党はシンボルマーク（刀、太陽、木等）を使用し、有権者に訴えかける。投票は、シンボルマークに○をつけるシステムをとっていると解説。）

④ この元隊員がかつての任地を支援し続ける理由

カースト制度が存続しているネパールでは、その最低レベルの人たちが、文字が読めないことが原因でいろいろな被害にあっているため。

例えば、

- ・ 契約書が読めず、結果土地を奪われた。
- ・ 薬と農薬を間違えて飲んでしまった。
- ・ 「地雷注意」の看板が読めずに、子どもたちがその周辺で遊んでいる。

5) 滋賀県国際協会の大森さんより、参加者にメッセージ

滋賀県には、800人以上の小中学生が日本語指導が必要である現状を知ってほしい。また、この発展性のあるワークショップを通して、文字が読めない人たちの立場を感じ、自分たちができることは何か考え、行動してほしい。

非識字体験ゲーム「ここは、何色？」については

<http://www.s-i-a.or.jp/kokusai/naniiro/index.htm> をご覧ください。

第4分科会

「考えてみよう！協力のカタチ」

■講師：中西真実さん、上野貴子さん（JICA関西国際協力推進員）

■参加者：19名

1) グループ分け（5分）

参加者は言葉を使わずにジェスチャーなどでコミュニケーションをはかり、誕生日の順番に一列に並ぶ。その後、1～4の数字を順に数えて4つのグループに分かれグループ毎にテーブルにつく。

2) コゲロ村ワークショップ

・ワークの状況設定、趣旨説明（5分）

参加者は旅行中に知り合ったケニア人のタニアさんの村にどんな協力ができるかを考える。

・ワーク①（10分）

与えられた選択肢カードの中から、5シリングという予算の中で優先して行なったほうが良いと思うものを選び、グループごとにその結果と理由を発表する。

【選択肢カードの例】

医者をもたらしてくる(2シリング)、井戸を掘る(2シリング)、学校を建てる(1シリング)、蚊帳を配る(1シリング)、濾過装置をつける(1シリング)等

【カードの選択理由】

医療を充実させるため /水を確保するため /教育を普及させるため /病気を減らすため 等



・ワーク②（10分）

コゲロ村を擬似的に訪問して現地の情報に触れる。

（パネルに張り付けられた村の写真、情報シートから村の様子や村人の声を見聞きする）その結果、気づいたことを各自発表する。

【意見】

設備が整っていないため医者をもたらしてくるだけでは医療の充実に繋がらないことがわかった。/井戸を掘っても飲用に適した水質ではないことがわかった。/学校があっても通えない家庭環境があることを知った。/病気に対する知識が不足しており蚊帳を配るだけでは不十分。等

・ワーク③(10分)

村を訪問して現地の情報に接して気づいたこと、考えたことをグループごとに話し合い、改めてワーク①と同じ作業を行う。ワーク①の時に選んだ選択肢カードと改めて選んだカードがどう変わったか、またその理由をグループごとに発表する。

【意見】

自分たちが必要だろうと思っていたものを現地では必要としていなかった。/やみくもにいろいろな分野に手を広げるより、ある分野に集中的に協力しないと効果が得られないと感じた。/多くの正確な情報を入手する必要性がある。 等

・まとめ(10分)

実際に現地を訪問できない状況の中で、現地のニーズにあった協力をするための情報はどのように入手することができるか、参加者間で意見を出し合う。

【意見】

現地出身の人に意見を聞いてみる。/ インターネットで情報収集する。/ 現地に行ったことのある人に話を聴く。 等

3) 青年海外協力隊OG 小森つぐみさんによる国際協力出前講座 (30分)

(ニジェール 村落開発普及員)

・ニジェールの国紹介

・小森さんのニジェールでの活動紹介

改良かまどの制作、植林活動、野菜作りによる現金収入獲得の補助 等

・ニジェールの子ども達の様子について

両親や兄弟がいても食事の行き渡らない子どもたちが物乞いをしている。/ きれいで安全な水が入手できないため下痢やお腹の病気が多い。/ 若年の女の子による出産や多産多死の状況がある。/ 栄養失調児が非常に多い。

・小森さんからの質問とメッセージ

- ① なぜニジェールの子どもたちの状況はこんなに厳しくなっているか？
- ② 日本人（先進国の人間）の生活とニジェールの状況にはどんな関係があるのか？



「世界にはいろんな状況で生きている人々がいる。世界の現状を知ることの一つの国際協力。その上で、小さなことでも自分にできることをやってみましょう。」

4) 全体のまとめ (5分)

コゲロ村ワークは「協力」をするという前提のもとにワークを行います。現実的には何もしないという選択肢もあります。その上で、最も大切なのは相手のことをきちんと知ることです。

教材体験フェア参加者の感想：

- ひとつの事実に対しても色々な見方、考え方ができること。複眼的に物事を見ること、グローバルな視点で日本や世界を見ることの大切さがわかった。
- 実際に教室でやってみようと思った。
- アクティビティの手法や考えさせる授業づくりができると感じた。
- 実際に体験する側として参加してみても気持ちの変化が体験できた。

といった感想が寄せられました。

海外経験を持つ方対象 伝え方講座 Part2

■講師：大槻 一彦さん（国際教育研究会 Glocal net Shiga）

日時： 2012年11月10日（土） 13:30～16:45

会場： ピアザ淡海

参加者数：20名（海外出身者 6名：青年海外協力隊経験者 5名、教員 5名、大学日本語教師 1名）

主催： 滋賀県国際協会 共催：JICA関西国際センター、国際教育研究会 Glocal net Shiga

1. 海外経験から伝えたいことはなにか？ 書き出してみよう！

（ブレインストーミング）

- 英語落語を通じて日本文化を伝えたい
- 異文化を理解することで、日本文化を考える
- 海外に出て初めて見える日本、現地のチラシ、地域の環境、文化
- 日本と中国の文化のつながり、日本の当たり前は世界の当たり前ではない
- 国が違っても仲良くなるのは同じ、否定せずに違いを受け入れていく
- ちがいは豊かさ、先入観をつぶそう、マナー、思いやり
- 日本の心をインドネシアの方に伝えたい、宗教の違い、歴史からの違い
- 公園の違い、目には見えない、実際に体験したこと（感情からしかわからないこと）

2. 1回の講座で伝えることはいくつ？

- 学校の **1時間の授業で、伝えられることは1つ。** たくさんあるが、一つに絞り込むことが大事。絞りきれないと、失敗に終わってしまう。
- ネパールを何日旅行すれば、すべて理解できるか？というのと同じこと。時間が足りないことは明らかだから。

3. 依頼側から見た講師

- 依頼側から、具体的に期待されるとうれしい。逆に、なんとか50分話して下さいという完全なお任せの依頼は、やる気がなくなる依頼ではある。しかし、なんでもいいのなら、自分がやりたいことをやれるチャンスと考えられるようになった。

4. 開発教育の担い手として

過去の流れとして、1970年代頃に国際理解教育（英語教育、帰国子女教育、海外移住教育）が推進された。次に、3F（ファッション、フード、フェスティバル）をネタにすれば手軽に楽しい授業ができるともてはやされたが、次第に限界を感じるようになった。2005年に文部科学省が「国際教育」として国際社会で活躍できる国際人を育てるための教育を推進するようになってきた。この「社会参加できる、行動ができる人」をつくっていく教育こそ、開発教育と考えている。

5. 伝えるということ（老子のことば）

「 聞いたことは、忘れる
見たものは、覚える
したことは、わかる
発見したことは、できる、身につく 」

だからこそ、参加型学習が有効です。

6. 使えるツール

- **1時間で使える写真の限度 最大5枚** 使えば使うほどわからなくなる。できれば、1枚の写真で勝負するのがベスト。
- **音楽・動画は、長くても30秒。** 雰囲気伝えるのであれば15秒で十分です。

7. 話すだけでなく、つくってみよう！

参加者の中で、実際にものや写真を持ってこられた方が7人おられたので、その方たちとペアもしくは3人組になって授業案づくりを進めた。

→ 授業の対象、学校側からの要請、テーマ、到達目標、進め方 をグループで考える。（約30分）

その後、発表を行った。



グループ①

対象：小学生

要請：実物に触れさせる

テーマ：中国、ベトナム、日本の文化のつながり

到達目標：「外国の文化に興味を持ってほしい」

進め方：

アイスブレイキング

3つの国のあいさつの言葉を使って、同じ言葉のあいさつの仲間づくり、その国の特徴を挙げる：「シンチャオ」「ニイハオ」「こんにちは」

ベトナムに対して、小学生にはイメージが出にくいのが、

実は、ベトナムコーヒーは、ブラジルに次ぐ産地 など紹介。

本題

＜民族衣装について＞

ボタンの掛け違いなどに苦労しながら、実際に着ていく衣装をみて、どのようなことに気づくかを投げかける。

- ベトナムのアオザイは、中国服の影響を受けている
- 日本の着物（袴）も、中国の宋の時代の衣装の影響を受けている
- 参加者で中国出身の王さんより、宋の時代は畳に座る文化があった。夏はシルク、冬は暑い生地の上にミンクのコートを着ていたという情報提供があった。



＜言葉について＞

「注意」は、「チュイ」と発音する。日本語、中国語、ベトナム語と共通の言葉

「汽車」は、中国語では「車」を意味する。中国語の汽車は「火車」と書く。「手紙」は、中国語では「トイレットペーパー」の意味。日本語と中国語では、同じ文字でも意味が違う言葉を紹介していく。

ふりかえり

今日どんなことを気が付いたか？を問いかけて、今日の授業をきっかけに、

「外国の文化に興味を持って下さい」というメッセージを伝える。

補足：地図上で位置を確認したい。主食は米で共通だということは伝えている。

アオザイも制服や儀式のある時に使っている。

グループ②

対象：小学校5，6年生

要請：他の国にも環境学習がある

到達目標：「他の国にも環境問題があることに気づく」

進め方：

アイスブレイキング 手がぴったり合うところで、子どもたちに手を叩いてもらう

アクティビティ 写真を用いて紹介

ミシガン湖の写真 →琵琶湖の5倍 海みたいだった きれいだった

砂丘の写真 →急斜面の砂丘の紹介、伝説が伝わっている。

絵本「Legend of Sleeping Bear」の読み聞かせ

クマの親子が仲良く暮らしていたが、火事が起こって対岸へ泳いでいくことになった、親熊は小熊の到着を待ち続けたが、待つ間に親熊は砂丘となり、小熊は子島2つとなって、向かい合っているという伝説

この砂丘も環境の影響を受けている。かつて、71mあったのが、現在31mにまで浸食がすすんでいることを紹介する。

まとめ 日本だけでなく、他の国でも環境問題があることを伝える

※ 絵本や途上国の子どもの写真1枚を紹介しておくことで、子どもたちの感情移入が強くなるので効果的。

グループ③

対象：小学生5，6年生

要請；ニュージーランドを紹介してほしい

到達目標：「日本とニュージーランドの共通点に気付く」

進め方：

アイスブレイキング

地図を見せる。「ここはどこでしょう？」→沖縄、日本の北海道、本州にも似ている。

世界地図を並べてみよう。

→大陸ごとにピースになったものを並べさせてみる。

すると、日本が真ん中にある地図が完成するが、ニュージーランドでは逆さ地図（南が上になっているもの）があるということを紹介する。

写真を見せながら

自然が豊かな国、ラグビーのワールドカップも開催された国などと紹介

日本との関わり

木材、ウール製品、木材などが日本にたくさん来ていることを紹介

ふりかえり

➢日本とのつながりを感じてもらえたらよい。

➢地図の違いから、世界の人々が見ている世界観があることにも気づいてもらえるとよいと思う。

➢まずは、ニュージーランドを知ることから、違う国のことにも興味を持ってもらえるかもしれない。

グループ④

対象：小学3，4年生

要請：世界のおもちゃ

テーマ：意外な世界のおもちゃの使い方

到達目標：「テレビゲームだけではなく、身近なものをおもちゃにして楽しんでいることに気づいてほしい。」

進め方：

アイスブレイキング

小さい頃、何をして遊びましたか？という質問を訪ねる

本題

モンゴルのおもちゃの紹介

これは、なんでしょう？

シャガイ（羊の足首の骨）

おはじき、骨の面に うま・らくだ と言ったように名前がついていて、占いや勝ち負けを競う遊び方がある。



「日本の遊びに似たものがあるかな？」と、問いかけてみる。

ふりかえり

日本にも昔、身近なもので遊んでいたことに気づかせて、身近なものを見せて、自分たちならどうして遊ぶかを考えさせる

例) 笹の葉 → 船をつくる

貝 → ネックレスをつくる

自転車のタイヤ → 転がして木の棒で押す

ヤシの実 → ボールにする



世界の子どもたちも、身近なもので遊んでいるんだよということを伝えたい。

グループ⑤

対象：大学生

要請：マレーシアへの体験報告

到達目標：「報告だけでなく、それを通して、異文化に興味を持ってもらって、海外に行く動機づけにしたい」

進め方：

アイスブレイキング

マレー系が多いので、イスラム教が主ということを説明。
イスラム教の音楽を流してみても、何かと思うか？と尋ねる。
宗教などのことについて説明する。

- PPTを使って、日本語教室での活動の報告
- 週末にタイへ行った時のこと。出入国の際に、様々な国の出身者の中にはビザの問題があったりしたことを紹介したり、物価の違いがあることなどクイズ形式にして伝える。
- パスポートや物価の面からも、日本のパスポートを持っていると、海外に行きやすいということ伝える。

グループ⑥

対象：小学校4年生

要請：フィンランドについて教えてほしい

テーマ：日本とフィンランドの違い

到達目標：「違いがあることを知り、その違いを乗り越えるか」

進め方：

アイスブレイキング

フィンランド語のあいさつの発音の練習 「フュバータイバ」

問いかけ：「みんなの足の下には何がありますか？」

→「石」「砂」「埃」

マルクさんは、「地球があります」同じ球によって宇宙を旅しているんですよ、と伝えている。

『言葉（外国語）を習得すると、いろんな人と話せるようになる』



実は、フィンランド語が日本語に入ってきている。600語ほど共通の発音の言葉もある。

例) サウナ、モンク=文句 など

写真・絵を見せる

緑が多い、人が少ない、日本と同じ土地に500万人しか住んでいない国。

自身の体験からのお話

いろいろな国に住んだ経験から、何でも好き嫌いで決めるのではなく、初めて出会った食べ物などは、「1年後にこれがおいしいかを決めよう」とルールを自分の中で作った。この食べ物が今現在も残って存在している理由があるはずだと学ぶ姿勢を持つことにしている。子ども

たちの前で話す機会があるときには、新しいことにチャレンジすることを薦めたり、フィンランドのお菓子を実際に食べさせたりもしているという実践例について紹介されました。

マルクさんは、「細かいことを積み重ねて世界のことを考えようとするが、子どもたちが抱え切れる数は決まっているので、大きなものをまず与えて、目標設定をさせるとよい」とまとめられました。

グループ⑦

対象：小学生

要請：インドネシアの紹介

到達目標：無形文化遺産にふれて、文化に触れることの大切さを知ってほしい。

進め方：

アイスブレイキング

インドネシアのあいさつ 日本語であいさつ

トゥレマカシー 「とうもろこし」と早口で言うと、そう聞こえると教える。

インドネシアのじゃんけん紹介

「小指 アリ」「人差し指 人」

「親指 ゾウ」

クイズ：どうして、アリがゾウに強いのか？

→ 答え：耳に入るから。

じゃんけんで勝ったひとに、インドネシアのコーヒーを飲ませてあげる



本題

インドネシアに関するクイズ

インドネシアの世界遺産は？

答え：ボルブトゥール など

実は、インドネシアの衣装も世界遺産です。

どうして民族衣装が世界遺産なのかを説明。ろうけつ染の動画を見せるなど。

日本の無形文化遺産について、説明してもよい。

インドネシアの衣装は33県ある地域で、それぞれ違う（例：スマトラ島は赤い衣装、ジャワ島は白い衣装）ので、ファッションショーを行う。インドネシアの音楽をかけて、教室に入ってきてもらい、モデルポーズで写真を撮る。

ふりかえり

モハメッドさんへの手紙を書いてもらって、「トゥレマカシー」と伝えながら、渡す。

他の参加者より

- ファッションショーのように参加者に実際に着てもらうというのは、とてもよいと思いました。
- 島の違いなどを、パズルなどを使ったりして示したりすると、もっと理解が深まると思う。

ジェロさんのブラジルボックスPPTの実践例紹介

対象：小学校3～6、中学1、2年生

要請：ブラジルについて紹介

ジェロさんの感想：

- 今日の講座で習ったことを考えながら自分のプレゼンを見直すと、写真も情報量も多すぎると感じたので、修正していきたいと思います。



8. 話すだけでなく

クイズを取り入れる場合：

知識を問うようなクイズは避けたい。

少しでも参加者が動けるような形を工夫しよう！

例) バングラデシュには見られないものはなにか？

答え：石 （泥しかないので石がない。）

→ 答えを絵で書かせたり、体で表現させてみるなどすると参加者に動きができる。

参加者に写真から発見できるようなものを取り上げ、
テーマにつなげるとよい。

例)

- タンザニアの少年が自転車に乗っている写真
（日本の中古自転車がアフリカへ行っている）
- タンザニアで走っている日本の中古車の写真
（日本の中古車であることが、現地でブランドになっている）
- 学校の写真（先生が日本人の青年海外協力隊員）

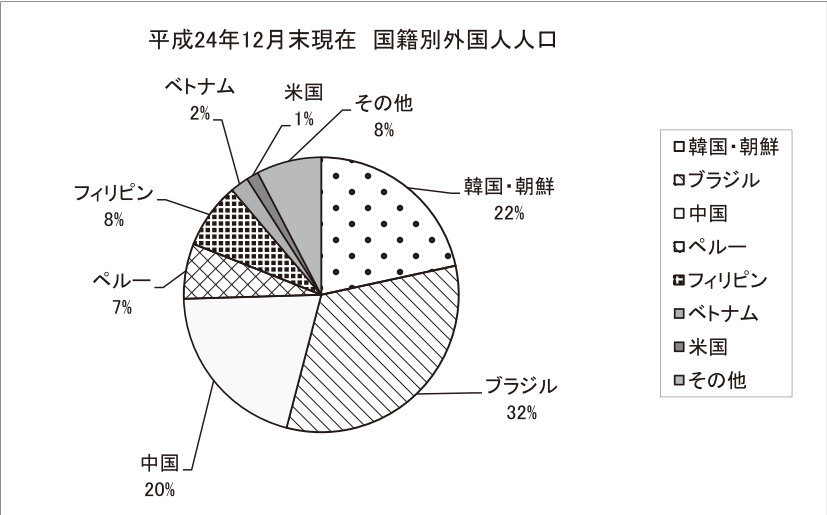


この授業のテーマは「日本とタンザニアのつながり」という授業展開となるわけです。

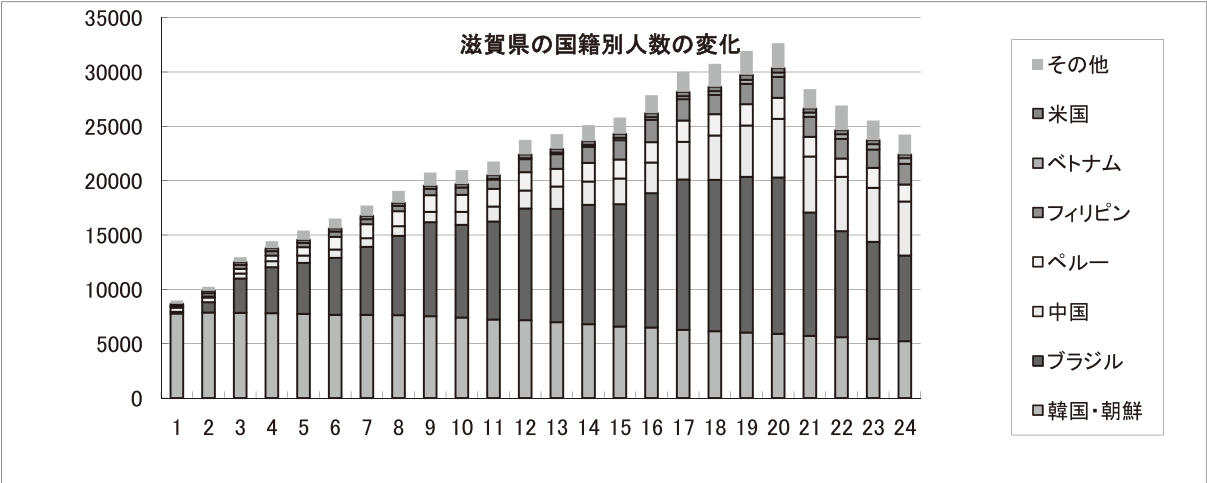
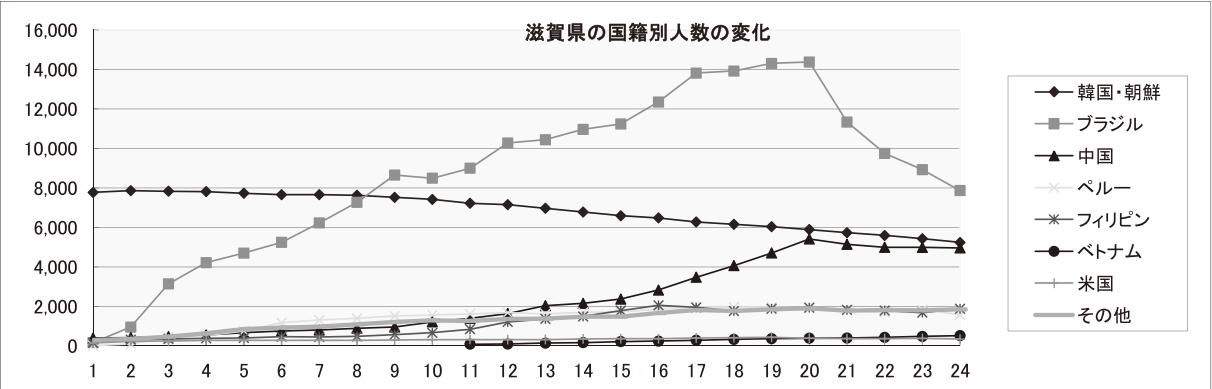
「今日紹介したようなポイントを参考に、みなさんも授業プランを作ってみてください」、と大槻さんから最後のアドバイスをいただきました。

滋賀県における国籍別外国人人口

公益財団法人滋賀県国際協会 作成



国 籍	外国人人口
韓国・朝鮮	5,241 人
ブラジル	7,873 人
中国	4,964 人
ペルー	1,576 人
フィリピン	1,882 人
ベトナム	524 人
米国	345 人
その他	1,851 人
合計	24,256 人



外国人人口の比率が2%以上の市町村 (平成24年12月末現在)

	市町名	外 国 人 口	総人口	外国人 比率	備考(上位3国籍)
1	湖南市	2,315	55,115	4.20	ブラジル 1,176人、 韓国・朝鮮 344人、 ペルー 335人
2	愛荘町	733	21,088	3.48	ブラジル 467人、 中国 68人、 韓国・朝鮮 62人
3	甲賀市	2,573	93,909	2.74	ブラジル 1,152人、 中国 429人、 韓国・朝鮮 292人
4	長浜市	3,087	123,824	2.49	ブラジル 1,648人、 中国 488人、 ペルー 256人
5	東近江市	2,778	116,922	2.38	ブラジル 1,458人、 中国 384人、 フィリピン 295人
	県全体	24,256	1,421,694	1.71	ブラジル 7,873人、 韓国・朝鮮 5,241人、 中国 4,964人

※滋賀県商工観光労働部観光交流局多文化共生チームの調査に基づく。
※平成23年12月末までは外国人登録者数、平成24年12月末は住民基本台帳人口による
※県民58人(58.6人)に1人が外国人

「国際教育研究会 くろーがる ネット し が Glocal net Shiga」について

私たち、「国際教育研究会 **Glocal net Shiga** (くろーがる ネット し が)」は平成15年(2003年)4月に立ち上がったグループです。名前にある“**Glocal**”とは **Global + Local** を結びつけた造語です。“**Think Globally, Act Locally**”(地球規模で考え、地域から行動する)という開発教育/地球市民教育/グローバル教育の地域社会に対する考え方を現すことばがあり、地球と地域を結ぶことばとして生まれました。

このような考え方をうけ、地元滋賀(Shiga)で地域に根ざした人たちをつなぎ(Network)、みんなで一緒に地球市民を育む活動に取り組んでいきたいという思いが込められています。

会のねらいについて

- 地球上には、自国文化を含め、さまざまな生活・文化等があることを知り、多様性を受け入れること **多様性の尊重**
- 地域には、さまざまな文化背景や価値観等をもつ人びとがともに暮らしていることを認識し、多文化共生の意識を育むこと **多文化共生社会づくり**
- 世界と自分はつながっていること、自分たちの生活と地球のどこかで起こっている問題が密接につながっていることを理解すること **相互依存関係の理解**
- 地球的課題を解決するために行動すること **公正・平和な社会づくり**
など

こうしたことをねらいとして、さまざまな実践方法(おもに参加型学習法)を学びながら、国際教育を促進することを目的としています。教育関係者・国際協力NGO関係者・外国籍住民・地域国際協会関係者、学生、青年海外協力隊OVなど、さまざまな立場や経歴の持ち主が参加しています。これまでに滋賀県の特徴を生かした題材をとらえ、「ブラジルボックス」・「カルタ“わたしん家(ち)の食事から”」・「非識字体験ゲーム『ここは、何色?』『初めてののお見舞い』」・「『言葉がわからない』体験ゲーム 何が起こった?(震災編)」の教材を開発してきました。また、より多くの方に国際教育を体験していただくよう年数回、国際教育ワークショップを開催しております。今後も幅広い知識や情報の交換を行い、より深みのある内容を取り上げていきたいと考えています。

入会について

毎月1回日曜日に例会を開催しています。さまざまな経歴のメンバーが集まるクラブ活動のような会です。渡航経験や語学については、まったく心配していただく必要はありませんので、この研究会にご関心のある方は、お気軽に下記までお問い合わせください。国際教育・開発教育についての企画相談、講師派遣も随時承ります。

<お問合せ先>

公益財団法人滋賀県国際協会 担当 大森

〒520-0801 滋賀県大津市におの浜1-1-20 ピアザ淡海 2階

電話:077-526-0931 ファックス:077-510-0601

E-mail:omori@s-i-a.or.jp

研究会24年度の活動について

開催日	内 容
4／15	国際教育教材体験フェア開催について話し合い
5／10	滋賀県消防学校 初任者研修へ講師派遣
5／26	国際教育教材体験フェア 分科会講師および分科会参加
6／16	ワークショップ「マーシャルと日本」体験報告 滋賀県総合教育センター 初任者研修（高校） オリジナルロールプレイのデモンストレーション 滋賀県総合教育センター 初任者・10年経験者選択研修について話し合い
6／26・28	滋賀県総合教育センター 初任者研修（高校）にて外国人児童生徒が抱える課題「進路相談」をテーマとする オリジナルロールプレイ実践
8／4	岡山県国際交流協会主催 国際教育セミナーへ講師派遣
8／6	JICA関西主催 開発教育セミナー分科会へ講師派遣
8／9	総合教育センター「初任者・10年経験者選択研修」において、「言葉がわからない体験ゲーム 何が起こった？（震災編）」などを実践
8／10	栗東市生涯学習課 学童での平和学習への講師派遣
8／20	京都市立向島中学校教員研修へ講師派遣
8／18	「カルタ わたしん家の食事から」第3版開発に向けての話し合い 今年度国際教育ワークショップ、伝え方講座の講師候補、興味のあるテーマについて話し合い
9／23	「カルタ わたしん家の食事から」第3版開発に向けての話し合い 今年度国際教育ワークショップ内容について 滋賀県総合教育センター 初任者研修（中学校）の内容について話し合い
10／15	大津市立仰木中学校 総合的な学習 国際理解学習への講師派遣
10／21	未来のための進路ガイダンス 見学 今年度国際教育ワークショップ内容について、初任者研修（中学校）の内容について事前最終確認 講師派遣対応について、カルタ わたしん家の食事から改訂について話し合い
11／7	湖南省立甲西北中学校 国際理解学習へ講師派遣
11／10	伝え方講座 参加
11／19	瀬田北中学校区人権担当者研修へ講師派遣
11／20・22	滋賀県総合教育センター初任者研修（中学校）にて研修実施 「カードサークル」「読めないお知らせ」「外国人生徒への進路指導ロールプレイ」「お役立ちサイト紹介」
12／7	長浜市立春照小学校 国際理解学習へ講師派遣
12／18	「一枚の絵から」ワークショップ試作デモンストレーション 滋賀県総合教育センター「環境学習講座」への講師依頼について 県営住宅住民交流会について、カルタ わたしん家の食事から 改訂作業について
1／14	国際教育ワークショップ 参加
2／7	次年度「教材体験フェア」について話し合い 平成25年度滋賀県総合教育センター10年経験者選択研修について 滋賀県人権教育課 教員若手リーダー養成人権研修について カルタ わたしん家の食事から改訂作業について
2／17	香川県国際交流協会主催 国際教育セミナーへ講師派遣
2／13	近江八幡市立八幡東中学校 国際理解学習へ講師派遣
3／23	次年度「教材体験フェア」について カルタ わたしん家の食事から改訂版の作成について



高校生との教材づくり

